

平成29年第10回（臨時）高砂市教育委員会 会議録（要旨）

日時

平成29年6月1日午後4時00分

場所

高砂市役所南庁舎4階研修室

出席者

衣笠教育長、山名委員、吉田委員、神尾委員、布施委員

出席事務局職員

大西教育部長、永安教育推進室長、瀧野学校教育室長
都筑教育推進室教育総務課長、赤松学校教育室学校教育課長、
福原こども未来部長、木村子育て支援室長、藤田子育て支援室幼児保育課長

本日の会議に付した事件

議案

- 1 平成29年高砂市議会6月定例会提出議案に係る意見の聴取について

報告事項

- 1 平成29年度教育部経営方針について
- 2 高砂市いじめ防止基本方針について

議 事 議案第1号 平成29年高砂市議会6月定例会提出議案に係る意見の聴取について

- 事務局 (議案第1号：高砂市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例の一部を改正する条例を定めることについて説明)
- 教育長 何かご意見ありますか。なければ次に行きます。
- 事務局 (議案第1号：損害賠償の額を定めることについて説明)
- 委員A 中学校のグラウンドで野球の公式戦をやるときには、外野のラインとか、ホームランラインとかは引くんですか。
- 委員B グラウンドによってローカルルールがあって、このラインを越えたらエンタイトルツーベース、スリーベースという形でラインを引く場合もあるし、会場の敷地のボールのはね返りようによって、クッションがちゃんと戻ってくるようなグラウンドであれば全くフリーです。
- 委員C 前もって決まっていた試合だからというのはよくわかるが、相手側から見ると、こういうことがあったのに、何の対処もせずまた試合をしたというふうにしかにしてもらえないと思う。これはほんとうに物損だけだったからよかったが、けが人が出ていたら、「前から決まっている試合だったのでやりました」というのはどうだろうかと思う。
- 事務局 12月18日に、同じようにボールが飛び込んでこの場所を破損させたというところで、4月28日の中学校の校長会で、部活動中における学校敷地外へのボールの飛び出し状況も聞かせてもらい、抜本的な改革ができていない、対策ができていないというところでは、抜本的な対策がとれるまでは試合会場には使わないでくださいとお話しさせていただきました。
- しかし、このたび、考え方が甘く、既に案内を出していた関係上、使ってしまった、あってはならない事故がまた起こってしまったと考えています。反省すべき点だと考えています。
- 委員D 姿勢が非常にまずい、反省すべきことが多いと思います。
- 教育長 きょう、中学校の自主校長会に参加をして、この件についても、話はしました。その中で、他の5校の中学校の校長先生方も、「そういうことがあったのか」ということで、自分のところのクラブ活動のあり方については、意識して考えてくれたと思います。
- 委員A クラブ活動のスケジュールは過密で、スポーツ以外でも、プラスバンド、マーチングにしても、いろんな大会のスケジュールに追われている。PM2.5でも、暑さに関しても、リスクがあったときには、スケジュールが決まっても、一般常識で考えて、やめるべきはきちんとやめないと、体、あるいは命、安心・安全でできるような形を考えていくことが必要だと思う。

○教育長 他にご意見ありますか。教育委員会としても、学校と連携を密にして事故防止に努めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○事務局 (議案第1号：損害賠償の額を定めることについて説明)

○教育長 被害者の方のご希望に沿うような形で対応したということです。でも、この事故については、今後こういうことが起こらないような配慮が必要だと思いますので、学校のほうにも指導したいと思います。

何か意見ありますか。よろしいですか。

○事務局 (議案第1号：第5回平成29年度高砂市一般会計補正予算について説明)

○教育長 何か意見ありますか。よろしいですか。それでは、補正予算についても承認いただいたということで、ご意見いただいたことを踏まえて議会のほうにもつないでいきたいと思います。

議 事 報告事項1 平成29年度教育部経営方針について

○事務局 (報告事項1について説明)

○教育長 何かご意見ありますか。なければ次に行きます。

議 事 報告事項2 高砂市いじめ防止基本方針について

○事務局 (報告事項2について説明)

○委員D 今回、茨城県の取手市の問題が大きく出ましたね。あのときも教育長が謝りに行ったという状況で、対応の問題というのは重要だと思うんですが、ああいうのは高砂市でも想定されているんでしょうか。もし何かあったときにスムーズに対応できるかどうか。保護者と、教育長、教育委員会とのやりとりが非常に激しかったので。もし万が一そういうことが起きた場合には、そういうふうに高砂市としても対応ができるのか。

○教育長 高砂市の事故防止マニュアルというのがありまして、そのマニュアルにもこのいじめの防止についてなど対応が示されていますので、それに基づいて適切に、迅速に対応できるようなことは、対策としては整ってはいます。

○委員A いじめに対しては、疑わしきものは、いじめがあるだろうということで動かない。「なかった」「あり得なかった」「認識できなかった」、ではなく、「あるかもしれない」「あったんだろう」ということでの動き方をしない限り、いじめの認定というのは難しいと思う。絶対、調べて、調べて、調べていって、ほんとうにないだろうと思っていても、不意に現実としていじめのあった実態が確認されることがある。

○教育長 いじめはあってはならないことですが、どの学校でも起こり得るという認識でしないと対応できないと思いますし、それを、ないだろう、なかったんだ

ろうなど、それだけで対応することによって間違っただけの対応になってしまうと思うので、どこでも起こり得るんだという危機感を持って対応はしていくべきだと思います。

○委員A いじめの認定はすごく難しいと思うんです。ささいなことで、言葉一つでもそうだし、その子に向かって石を蹴っただけでも、それをされたほうがどんなふうにとるかでいじめになり得る。それがきっかけで、ほかの人がみんな私に対して変な目で見ているとか思い出したときは、それはいじめの始まりかもしれない。防止を、できるだけ謙虚に、相手に対して、いじめとして認識させない、いじめを受けているという形の状態にさせない接し方をしているかといけない。そういう意味で、あるものとして接してほしい。

○委員D 最終的に家庭の問題だとか、すりかえそうなことばかりやりますね。あれがまた火に油を注ぐような形になってしまう。

○委員C 「いじめがあったことが確認できませんでした」ということを記者会見でよく言われるのをニュースで見ている側としては、あったことが確認できなかったのなら、なかったことも確認できていないはずじゃないかと思う。それを、「あったことが確認できなかった」と言うのは、ほんとうに陳腐な感じがする。

○教育長 教育委員会制度が変わって、新教育長の立場も示されています。教育委員会の体制が変わってきたきっかけは、大津のいじめの事件であったりすることがあっての迅速な対応とか、教育委員会と教育長が、責任の所在が微妙な感じであったとかいうことは改善されて、責任を明確にしろとかいうことも趣旨の1つにありましたから、そのことを踏まえても、しっかりと、いいかげんな言い方で、その場しのぎみたいなことはやってはいけないということは、認識しています。そのときは、教育委員会の中でご相談したり、ご意見もいただきながらの対応になると思います。起こり得る、どこの学校でも起きる、落ちついているような学校でも全てそういう危機感を持って対応しなければならないということは十分認識しています。

○委員A 学校当局と教育委員会と、いろんな文書の紛失の問題のことと一緒に、いじめのことと、事案を共通に、みんなで対応していかなければならないのを、そこで個人的に解決しようとか、そういう形で取り込んでしまっただけで、相談をしなかったりすると大ごとになっていくので、教育委員会も専門的に対応できる人たちとか、青少年育成とか、いろんなところが絡んで、みんなで対応していかなければならないと思う。

最近では、いじめのアンケート調査の感触はどうですか。

○事務局 今、学校のほうにお知らせして、やってもらっています。これからまた学校から結果が返ってくるというところです。

○委員D それは定期的にやるんですね。いじめられている、いじめを見たというとき

に、例えば、いじめ110番みたいなものは各学校とかには設置されているんですか。

○事務局 学校の中では、先生に言いなさいというような指導はするようにお願いしているのと、ホットラインみたいなところが何か所かあります。県とか、高砂市でも相談の窓口の番号があって、シートを配るときに、同時に子どもたちに、何か困ったことがあったらここに電話してねというのは一緒に配布しています。

○委員D 簡単にそこに望みを託すことができるようなものが身近にあるかどうか。いじめを見た、いじめられているというのを伝える手段があるのが一番大事なと思います。

○事務局 学校現場においては、家庭と連携して、教師がいかにいじめに対するアンテナを高く広く張れるかというところが未然に防いだり、また、今回の茨城の取手のように自死に至るようなものを防いでいけるということで、積極的認知をしなさいと示されています。今までのいじめの定義がもっと広く解釈されるようになりましたので、それについては事あるごとに教育委員会から学校現場へは、十分指導をしています。

○委員B 今、話題に出ていないところで、学校現場がやっていることをちょっと紹介すると、いじめアンケートみたいなのを毎週1回やっている学校があります。なかなか言わないんです。だから、そういう機会をたくさん増やすと、子どもは何かのたびにぽつと言うときがあるんです。できるだけ情報を収集しやすい、困った子どもが訴えやすいような、そういう状況をつくってということも現在やっています。

○委員C 子ども一人一人に丁寧に対応していただくために、先生方にたくさん時間をつくっていただきたい。担任の先生は、授業やいろいろしながら時間をきちんととっていただいているとは思いますが、やっぱりお忙しいと思うんです。子どもに寄り添える時間というものを高砂市の教育委員会は一番に考えてほしい。

○教育長 貴重なご意見、たくさんありがとうございました。この基本方針がきちんと具現化されるように、魂が入るように努力たいと思います。

ほかにご意見等はありませんか。

ないようですので、第10回の高砂市教育委員会を閉会いたします。

平成29年6月1日 午後5時54分 教育長会議の閉会を宣告
